各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2025年04月分)

ご協力ありがとうございました。2025年4月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 143 回答 129 回答率 90.2%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	10社	13社	44社	35社	28社	130社
	7.7%	10.0%	33.8%	26.9%	21.5%	
	(6.7)	(12.7)	(34.3)	(23.1)	(23.1)	
売上高	11社	13社	37社	36社	32社	129社
	8.5%	10.1%	28.7%	27.9%	24.8%	
	(7.5)	(12.7)	(31.3)	(26.9)	(21.6)	
在庫数量	5社	19社	54社	27社	18社	123社
	4.1%	15.4%	43.9%	22.0%	14.6%	
	(10.2)	(10.9)	(53.1)	(17.2)	(8.6)	
販売単価	4社	15社	61社	42社	6社	128社
	3.1%	11.7%	47.7%	32.8%	4.7%	
	(4.5)	(9.8)	(46.2)	(35.6)	(3.8)	
収益状況 (粗利)	8社	19社	43社	41社	17社	128社
	6.3%	14.8%	33.6%	32.0%	13.3%	
	(8.3)	(11.3)	(39.8)	(25.6)	(15.0)	
稼働率 (生産・加工設備)	3社	11社	45社	38社	14社	111社
	2.7%	9.9%	40.5%	34.2%	12.6%	
	(1.8)	(9.6)	(39.5)	(30.7)	(18.4)	
入出庫の トラック台数	1社	10社	56社	44社	14社	125社
	0.8%	8.0%	44.8%	35.2%	11.2%	
	(0.8)	(5.3)	(48.9)	(32.1)	(13.0)	
現在の 景況感	0社	5社	52社	41社	30社	128社
	0.0%	3.9%	40.6%	32.0%	23.4%	
	(0.0)	(3.0)	(37.9)	(36.4)	(22.7)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	5社	82社	33社	8社	128社
	0.0%	3.9%	64.1%	25.8%	6.3%	
	(0.0)	(3.8)	(57.6)	(30.3)	(8.3)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2025年4月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 4月は前年比微減となった。ここ数ヶ月は横這いで推移していたものが、ついに減少に転じる結果となった。依然として先行きは不透明な状況が続いているが、物価高の影響は継続しており、適正な価格転嫁を進めていくことが、当面の最重要課題と認識している。
- ② 1～3月は前期比8%程度販売量が落ちていたが、4月に入りさらに前期比5%販売量が落ちた。需要が低迷している中、安価な輸入材はさらに増えそうな状況であり、市況の下落が止まらない。
- ③ 荷動きがない中、安価な輸入材が荷揚げされ、たちまち市況が下落。先物オフアーを見送り、一部ショートしている品種もあるが、ここ数ヶ月は建築/建材ともに良くなる見込みなし。
- ④ 前年も悪かったが、さらに荷動きが悪かった。GWの駆け込みもなく、明けにも期待できない状況。
- ⑤ 5月後半より端境期に入るため出荷減の見通し。ただ、物件見積りは動いているので、7月以降で回復できるか。

中板

- ① 中板においては、年度明けも需要に目立った変化は無く、建築関連・建機関連のメインどころも低位横ばい。店売りは相変わらず小口当用買いに徹しており、荷動きは冴えない状況が続く。市況は直近で電炉メーカーの値下げもあり弱含みジリ安の傾向が続いている。

厚板

- ① <全体感>状況に大きな変化なく、どの分野においても需要も盛り上がりはない。紐付分野では、新たな期に入り緩やかな回復も期待されていたが、足元は横ばいの状況に加えて先行きも不透明感が強い。上期においては当面、様子見となる見込み。<分野別>建産機分野においては足元、販売が思わしくなく生産計画に変動は見られない。懸念材料であったアメリカの関税問題に関しても影響が具体的に見えず、下期に向けて下振れを予想する声あり。店売り分野では切板需要が低迷する中で荷動きは鈍く、一部メーカーの遅れ等によるSPOT的引き合いが中心となっている。
- ② 建設機械は、減産が顕著で売上も減少している。店売り関連は、鋼材の高騰、人手不足の影響で売上も非常に減少している。
- ③ インフレ下での東鉄の値下げにより市場は混乱。
- ④ 免振関係は全体的に低調となっている。店売りについても前月と同様で動きはなし。
- ⑤ 弱い需要+先般の東鉄の値下げが主要因で、上期は好転の兆しなし。

一般形鋼・H形鋼

- ① 3月が売れなかったため4月はその反動か、量も売上高も少し伸びたが、顧客は半年前から受注が減少し、工場の稼働も低調である。トランプ関税問題も現状では不明につき、先行き不安にならざるを得ない。
- ② 足元の海外情勢からの円高進行もあり、一部メーカーの値下げ発表があったが、その他メーカーはコスト高を理由に据え置きの流れとなった。マーケットは先行した弱含み状況であることを丁寧に説明の上、冷静な対応と実態に即した在庫政策に引き続き取り組む。
- ③ 再開発案件はなかなか動かない。元請、番頭、職人が少なく回せていないのが現状。

異形棒鋼

- ① 新年度に入ったが、依然動きは不調。明るい兆しは見えてこない。現行値を維持し我慢するしかない状況。
- ② 荷動きの環境は変わらないが、3月よりは改善した。需要が回復せず、流通としては売り焦りが出ており、市況は弱含みである。採算は悪い。
- ③ メーカーの値上げ発表はあるが価格は変わらない。4月はそこそこ動きが良く、5月も同様の見込み。

平鋼

- ① 数量は3月に比べほぼ横ばいだが、前年対比では大幅減。5月以降も良い話はなく、我慢の商売が続くと予想する。
- ② 4月は年度替りもあり、倉出しの出荷は多少動いたが、まとまった出荷は少ない。社内加工は、3月よりは受注残が増え5月中旬頃までは見えているが、6月以降の案件が見えていないので、日々の情報収集に徹していく。

軽量形鋼

- ① 店売りが一段と低調となっており、苦しい状況。
- ② 生産量・受注量共に横這い傾向。当面横這い継続と推測される。

鋼管

- ① 前月に比べれば、日割出荷はやや増加したものの、景況感は冴えない。

構造用鋼

- ① 需要については、自動車は中国の低迷や米国の関税措置の影響懸念もあり、さえない状態。建機関連は減産し、工作機械や産業機械も同様に総じて低調。荷動きも弱い状態が継続。在庫はほぼ横ばいで適正。価格は一部下がってはいるが影響は局所的。当面は弱もちあいでの推移の見通し。

その他

<スクラップ>

- ① スクラップの需給は変わらず低調。海外市況も続落していて、5月は弱含みと予想している。

<金属表面処理>

- ① 4月の扱い量は計画より▲10%。紐付きの大型物件により数量は確保出来たが、スポットの量が減少となった。4月後半より引合いも低調。5月連休明けからの動きに注視し、前倒しでの加工も検討する。

<ステンレス・アルミ・チタン>

- ① 3月はスポット案件により、いつもの倍の売上があったため、4月売上が10%以上減少となったが、平時の水準と認識している。